

平成29年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 富山市立寒江小学校
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒930-0108
富山県富山市本郷中部 427

E-mail samuesho@city.toyama.lg.jp
Website http://swa.toyama-city-ed.jp/weblog/index.php?id=toyama038

幼児児童生徒数 男子 46名 女子 41名 合計 87名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

当校は、「寒江のよさを知り、寒江のよさを育てよう」を活動テーマとして、ESDの実践を通して人格の発達や、自立心、判断力、責任感などの人間性をはぐくむとともに、他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」、「つながり」を尊重できる児童の育成を目標とした。

具体的には、人とのつながり、自然とのつながり、社会とのつながりを柱に、①地域の伝統文化・産業に関わるに係わる活動、②環境に係わる教育、③食育に係わる学習、④縦割り活動に係わる学習を行った。

① 地域の伝統文化・産業に係わる活動

2年生生活科では「みつけよう！つたえよう！ぼく・わたしのさむえのたから」テーマに、自分たちの足で実際に地域を歩き、「さむえの町のたからもの」を探した。そして、たくさんの寒江のよさの中から一番自分が心を寄せている「たから」はどれかと、寒江の自然や祭り、人と自分との関わりを振り返った。それを伝えるために、もっと詳しく調べたり、何度も行って楽しんだり、触れ合ったりした。

② 環境に係わる教育

4年は、社会科の学習を通して、地球上では様々な環境問題が起きていることや、中でも大量の二酸化炭素の排出が原因である地球温暖化が大きな問題になっていることに気付いた。自分たちの手で4種類の植物を育て、エコカーテンとして室温を下げる効果を調べ。そして、実感したエコカーテンのよさを広めようと地域に呼びかけた。また、ムクナ豆の栽培で実績のある富山県立中央農業高校生からグリーンカーテン作りのアドバイスをしてもらったり、蔓を使ったリース作りをともにしたりするなどの交流を行った。

③ 食育に係わる学習

5年生は、「おいしいおもちを食べよう」を合言葉に、餅米作りに取り組んだ。地域の方に教えていただき、田起こし、代掻きと、苗を植える準備から行った。苗植え後も、水の管理や草を埋め込む方法など、分からないことを資料で調べたり地域の方に教えてもらったりしながらお世話を受け、無事に収穫することができた。手作業でのもみすりや精米の大変さも体験した。地域の方や家族に手伝っていただき行った餅つきでは、自分たちで栽培した大豆、小豆で作ったきな粉やあんこをまぶした餅を食べることができた。米を大切にしている日本人の食文化に感心した。

④ 縦割り活動に係わる学習

日頃清掃活動を行っている縦割り班で行うサツマイモの栽培活動は、春に『苗植え集会』、

秋に『やきいも集会』を行い、収穫を喜んでいる。『やきいも集会』では、地域ボランティアの方からもみ殻を頂き、燻炭でサツマイモを焼いている。班でペアをつくり、いもを選んで湿らせた紙とアルミホイルでくるみ、火を付けた籾殻の中に入れ、焼き上がりを待つ。おもしろい形をしたサツマイモを紹介する「サツマイモコンテスト」を行った後、焼きあがったサツマイモを班のみんなと食べている。また、いつもお世話になっている地域の方々に、子供たちが焼きいもを届けて感謝を伝えている。



① さむえのたからもの



② グリーンカーテンを広めよう



③ みんなでチャレンジ〇〇米作り



④ 全校縦割り活動

(2) 活動の詳細

① 活動内容

活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育(GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他(縦割りの活動)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

富山の偉人物語 石黒岩次郎の紙芝居 豆の博物館

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に務めていますか努めているか。

ESD を、特定の教科等で実践するのではなく、学校全体の教育課程において実践するように心がけている。どのような授業や教育活動がESDの実践となるのか、地域の特性を踏まえて「持続可能な社会とのつながり」を考えている。教科領域等の横断的なつながりを考えた「ESDカレンダー」を作成し、「学びの見取り図」としている。

ESDでは、体験、対話、協働といった学習を大切にし、過去と現在に学び、未来を創ることを目指す単元や授業を考えている。

- ③ 学全校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

教員の校内研修は、全教員がESDの認識を共有することから始めている。教員参加型の研修を進めることで、共通の研究主題や実践内容について考えを深め合い、共同で方向性を見いだす作業と場を大切に進めている。個人の実践を全員で共有し、そこから学び合うことを大切にして研修を進めている。実践発表会の機会を設け、地域、他の学校、ESDに関わりのある諸団体などに案内し、関係者で協議し、学び合うようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

実践発表会の機会を設け、地域（地域諸団体・学校評議員・保護者）、他の学校、ESDに関わりのある諸団体などに案内し、当日、参加者で協議し、学び合うようにしている。

学校評議員及び保護者に、体験、対話、協働といった学習に関する項目のある学校評価アンケートをうけている。「学校は地域の特色を生かした活動や地域の人材に努めている」「子供たちの思いを組取ったり、体験的な活動を行ったりしながら、子供たちは楽しく学習をしている」等の声が聞かれる。

⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

実践発表会の機会を設け、地域、他の学校、ESDに関わりのある諸団体などに案内し、全学級での授業公開や活動経過の紙上発表を行っている。そのことが、教員の指導力向上の一助となっている。

ESD富山シンポジウムにおいて、子供たちは自分たちの取組を富山地区のユネスコスクール関係者（児童・保護者・地域関係者）に向けて発表をしている。発表のために、自分たちの取組を振り返り主張を明確にしたり、その根拠を選んだりする力、また、効果的な発表をするための力が高まってきている。発表に対する参加者の感想によって、自分たちの取組のよさを確認し、活動への自信や新たな意欲をもつことができた。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

一般社団法人大学コンソーシアム石川の金沢大学教職員大学院教授松本謙一先生から校内研修会や富山ESD講座委員会等の機会に指導・支援をいただいている。

また、一般社団法人大学コンソーシアム石川主催のESD富山シンポジウムに、子供たちが参加している。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

一般社団法人大学コンソーシアム石川主催のESD富山シンポジウムに、子供たちが参加し、富山地区のユネスコスクールと取組を紹介し合い、感想をもらうなどして、交流をおこなっている。

実践発表会の機会を設け、ユネスコスクールに案内し、当日、参加者で協議し、学び合うという交流をおこなっている。また、他のユネスコスクールの実践発表会に本校職員が参加し、交流を重ねている。

- ⑧ ユネスコスクール活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

新学習指導要領の基本方針である「育成を目指す資質・能力の明確化」「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進」「各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進」が、ESDが求めている部分と重ねてみることができ、その理解が図られたように思う。

（3）平成30年度の活動計画

ESDにおいて、教員と子供による授業が協働的な活動、体験的な活動になるように工夫され、他との交流を通して、実生活の変容につながることを目指している。

地域の人、自然、社会のことを真剣に考え、自尊感情を育み、他を思いやる気持ちをさらに育ていけるよう「平成30年度ESDカレンダー」を作成し、各教科や領域の横断的なつながりをより一層大切にしていく予定である。

学全校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組めるよう、研修の年間計画の改善、主体的な研修の進め方を図って行く。